

専門部会による企画1～3＜大会1日目＞(概要)

2018年8月27日(月) 16:05～17:35

創価大学 中央教育棟

1. 医療系部会＜ラウンドテーブル＞532教室

テーマ「医療系学生の学習意欲、および生活実態調査—学生の現状を把握する—」

総合司会：岡田 弥生（東邦大学）

グループ司会：熊澤 美裕紀（明治薬科大学）、橋本 美香（川崎医科大学）

1. 趣旨説明

卒後国家試験を控えている医療系大学では、卒業時に国家試験に合格できる学力を身に着けることが必須である。しかし近年、国家試験合格に匹敵する学力を卒業までに身に着けることが困難な学生が増加、それに伴って留年者や退学者が増加してきている。現在このような学力低下問題について、各大学で解決策を模索しているのが現状である。そのため、各医療系大学・専門学校が協力し、情報を交換して組織的に学力低下問題に対応することを目的に、昨年度、本学会に医療系部会が立ち上がった。本年度は第一回の部会企画として、医療系各学部における学生の現状把握と各大学の対処法の情報交換を行う。この情報交換・小グループ討論をもとに、今後本部会がどのように学力低下問題と向き合っていくかについて、総合討論を行う。

2. 話題提供：コアカリあり医学部、薬学部、獣医学部、歯学部と現状コアカリが設定されていない他の医療系学部の2グループに分かれて行う。

グループ1：吉田 友昭（藤田保健衛生大学）「医学部における現状と対策」

清水 忠（兵庫医療大学）「薬学部における現状と対策」

深谷 慎介（麻布大学）「獣医学部における現状と対策」

グループ2：白戸 亮吉（日本医療科学大学）「保健医療学部における現状と対策」

原 賢治（広島都市学園大学）「理学療法士養成課程における現状と対策」

西田 志穂（共立女子大学）「看護学部における現状と対策」

長屋 説（社会医学技術学院）「医療系3年制専門学校における現状と対策」

3. 質疑応答

まず、上記の各グループで質疑応答を行い、各グループでの意見をまとめた上で、1、2グループ合同でどのように学力低下と向き合っていくべきかを討論する。

2. ICT 活用教育部会 <ワークショップ>533教室

テーマ「ICT を活用した授業設計の事例報告と自身の授業の ICT 活用検討」

企画代表：仲道雅輝（愛媛大学）

概要

高等教育における ICT 活用への関心は高く、学習支援システム(LMS:Learning Management System) を活用した教育展開やeラーニングコンテンツ開発等の取り組みが増えています。次の段階として、開発したコンテンツを授業の中でどう活用するか、学習効果を高める授業設計のコツは何かという点も注目されています。

日頃実践されている ICT 活用教育事例の共有をベースに、これから ICT を活用してみたい、もっと学習効果を高めたいと考えている方々にヒントを持ち帰っていただけるワークショップにしたいと考えています。

プログラム

1. CBT によるレベル判定を中心とした反転型のプログラミング授業について 山川広人（千歳科学技術大学）
2. インストラクショナル・デザインを活用した授業設計について 仲道雅輝（愛媛大学）
3. グループワーク・質疑応答 ～自身の授業に ICT をどう活用できるか～ 司会・仲道雅輝（愛媛大学）
4. グループワークの成果共有・まとめ 司会・仲道雅輝（愛媛大学）
5. 総会

（詳細は決まり次第、お知らせします。）

3. 学習言語部会<ラウンドテーブル>534教室

テーマ「**「大学教育の質保証」を担保する学習言語と言語力 (人工能にはない読解力を育てる)**」

企画：たなか よしこ（日本工業大学）

司会：馬場 眞知子（前日本語部会長 東京農工大学）

1. 趣旨説明

学習言語とは、人が何かを学ぶために使う言語のことである。思考の道具としての言語の枠組みであり、それは、大学で高等教育を受けた人間が、社会でどのように役割を果たして行くかということの根幹となる。人生100年時代と言われ、半ばでの学び直しを求められていることを見据え、社会の一員として自らの人生を全うするために、どのような言葉を用い、どのように駆使していくのかという視座で議論する。その普遍的な視点から、大学教育の各分野における用語の理解、及び広がりと深さについて検討し、意見を交換する。

2. 話題提供・登壇者

- (1)伊藤 雅一（千葉大学大学院）「社会参画における言語活動の役割」
- (2)矢島 彰（東大阪大学） 「プログラミング教育と学習言語」
- (3)栗山 靖弘（鹿屋体育大学） 「教育社会学から見た用語の視点」
- (4)志手 和行（東京福祉大学） 「外国語教育から見た言葉の理解」
- (5)河住 有希子（日本工業大学） 「総括 学習言語を育てる」

※ラウンドテーブルとは、発表者と数名参加がテーブルを囲み、自由に意見を交換する場である。

専門部会による企画4～6＜大会3日目＞(概要)

2018年8月29日(水) 10:45～12:15

創価大学 中央教育棟

4. 日本語部会＜パネルディスカッション＞532教室

テーマ「日本語を書く:高校と大学の日本語教育の円滑な接続をめざして」

司会:佐藤 尚子(千葉大学)

1. 趣旨説明

大学で行われている日本語の授業はレポートの作成など「書く」能力を養成するものが多い。今回の日本語部会では、「書く教育」について、高校でどのような教育を行っているかを踏まえたうえで、大学でどのような教育を行うべきか、その円滑な接続について考えたい。

2. 話題提供

(1)塚越 久美子(北海道科学大学)「高校での『書く』教育の現状(アンケート調査の結果から)」

(2)大野 早苗(順天堂大学)「『書く』ことについて、大学生が有している能力はどのようなものか(意見文分析の結果から)」

3. コメント

「高校の立場から」

北澤 正志(川崎医療福祉大学)

畷岡 睦実(岡山県立岡山南高校)

4. 質疑応答

5. 理数系部会<ラウンドテーブル>533教室

テーマ「大学初年次における数学的リテラシーの習得の現状・対策・課題」

司会：西 誠（金沢工業大学 基礎教育部）

1. 趣旨説明

大学初年次において必要な数学的リテラシーは理系や文系、あるいは専門分野によって大きく異なってきます。また、学力差や履修歴の異なる学生に対して必要となる数学的リテラシーを習得させるためにはさまざまな課題があり教育の工夫が必要です。そのため、各大学では入学初年次において学生に大学の専門を学ぶための数学的リテラシーを向上させるためのさまざまな取り組みが行われています。

今回の企画では、各大学がそれぞれ独自に行っている数学的リテラシー習得のための取り組みに関して話題提供をいただくとともに、さまざまな専門において必要な数学的リテラシーの内容やその習得のための課題や対策について意見交換を行いたいと思います。

なお、今回は参加者の自由な意見交換の場として、さまざまな観点から数学的リテラシーについて議論したいと思います。

2. プログラム

(1) 西 誠（金沢工業大学）「大学初年次における数学的リテラシー習得に関する問題提起」

(2) 数学的リテラシーの習得の現状について

参加者による初年次における数学的リテラシーの現状についての報告

(3) ラウンドテーブルによる議論

「初年次において数学的リテラシーを如何に修得させるか」

(4) 議論のまとめ

6. 学習支援部会<ラウンドテーブル>534教室

テーマ「学修(習)支援に関する問題意識と課題の共有」

司会：石毛 弓（大手前大学）

1. 趣旨説明

学生への学修(習)支援の内容や実施体制、運用は、教育機関によって大きく異なる。部会員ごとのこのような多様性を踏まえて、本企画ではラウンドテーブルを開催する。話題提供者それぞれがテーマを設定し、各テーブルに分かれて発表を行い意見を交換する。参加者の問題意識に沿った具体的な議論が展開することが期待される。なおテーマは学修(習)支援に関する研究成果や実践報告を基とするが、あわせて話題提供者には、どのようなディスカッションが提供されるのかを参加者が想起できる情報を予稿に盛り込むことが求められた。各ラウンドテーブルの成果については、企画開催後にとりまとめて学習支援部会員に報告することを予定している。

2. 話題提供（50音順・敬称略）

(1)石井 研司（辻調理師専門学校）「授業デザイン・ブラッシュアップ入門編（インストラクショナルデザインの視点から）」

(2)笠村 淳子（名桜大学）「学習センターの実践活動から見えるチューターの社会人基礎力養成の可能性（名桜大学言語学習センターの事例から）」

(3)清水 忠（兵庫医療大学）「初年次学習支援において注力すべきところは？」

(4)辰巳 佳寿恵（大阪体育大学）「障害者差別解消法施行後の、障害学生支援のための意識改革について（私たちは本気で障害学生の支援に向き合ってきたか？本学視覚障害学生への支援の実際を振り返って）」

(5)森下 佳代子（小山工業高等専門学校）、関根 健雄（小山工業高等専門学校）「学生の質保証をしつつ留年率・退学率を低減するためにどのような学習支援ができるか」

3. 情報共有・まとめ

以上